中国・ASEAN

中国・ASEAN自由貿易協定アップグレード議定書（ACFTA3.0）
成長と包摂性確保に配慮し、サプライチェーン連結強化を目指す

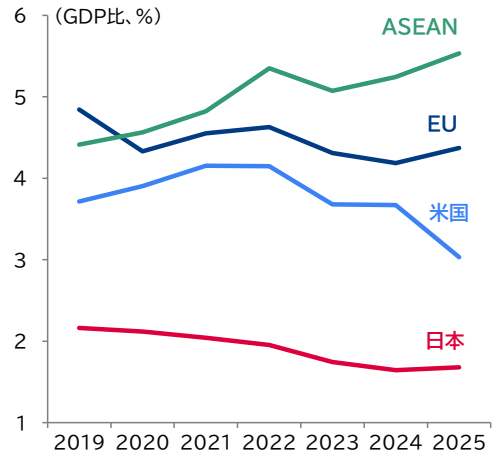
政策・経済センター
金成大介
03-6858-2717

1 サプライチェーン連結性の方針

項目	概要
市場開放	多国間貿易体制を維持し、自由で公平な環境を促進
貿易障壁の解消促進	税関手続や基準を改善し、円滑な貿易を推進
インフラ強化	輸送・港湾の効率化による物流ボトルネックを解消
技術革新	中小企業へのデジタル技術浸透、デジタル化による域内サプライチェーン強化

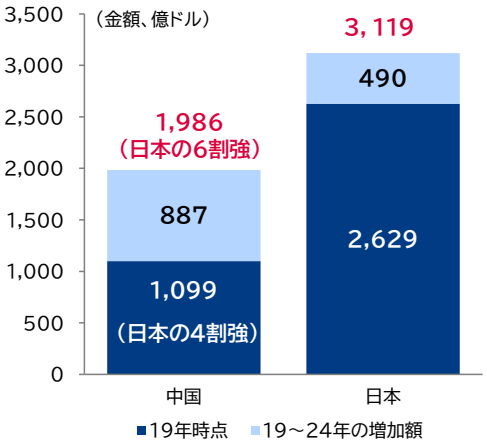
出所：ジェトロ、中国商務部HPを基に三菱総合研究所作成

2 中国の日・米・欧・ASEANとの貿易



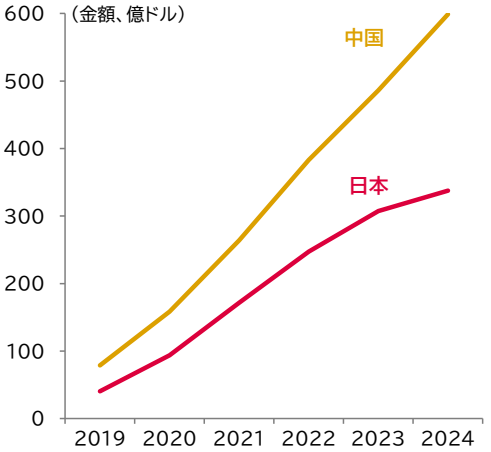
注：各国・地域向け輸出と輸入の合計。25年は1-9月期の実績。
出所：Macrobondを基に三菱総合研究所作成

3 中国・日本からASEANへの直接投資（投資残高）



出所：Wind、ジェトロを基に三菱総合研究所作成

4 ASEANから中国・日本への直接投資（19年からの累積投資額）



出所：Wind、ジェトロを基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 10月に中国とASEANは、自由貿易協定3.0アップグレード議定書（以下、ACFTA3.0議定書）に調印した。中国・ASEAN経済連携強化への基本方針として、既存4分野（標準・技術法規および合格評定手続、衛生・植物検疫措置、税関手続・貿易円滑化、経済）に、サプライチェーン連結性、デジタル経済、グリーン経済、競争・消費者保護、中小企業の5分野が追加された。

今後の注目点

- サプライチェーン連結性では市場開放、貿易障壁の解消促進、インフラ強化、技術革新の協働といった通商関係強化への方針が示されているほか（図表1）、成長が見込まれるデジタルやグリーン分野の協働方針も示されている。
- 既に、中国の貿易相手は、日米欧ウェイトが低下し、ASEANシフトが進んでいる（図表２）。米国保護主義化も考慮に入れると、ACFTA3.0議定書の方針のもと、中国はもう一段のASEANシフトを志向する公算が大きい。
- 中国ダンピング輸出への懸念があるなか、ACFTA3.0議定書に包摂性確保に関連する競争・消費者保護、中小企業支援が加わったことは注目に値する。中国次期５カ年計画における国内外の相互投資を促進する方針も考慮すると、中国からの一方的な輸出拡大ではなく、ASEANへの生産移転などによる互恵関係強化を、中国・ASEANは目指しているとみられる。
- 直接投資動向には、中国・ASEANの互恵関係強化の萌芽がある。近年、中国からASEANへの投資が急増、日本対比での投資残高は19年の4割強から24年に6割強まで増加している（図表3）。ASEANから中国への直接投資の流入拡大ペースも、日本への流入ペースを上回っている（図表4）。
- 日本のASEAN進出の歴史は長く、現時点では依然高い市場シェアを有している。ただし、ACFTA3.0議定書のもと、中国・ASEAN連携が加速すると、日本企業の既存商圏が脅かされる可能性がある。日本企業は、これまでの実績に甘えることなく、中国・ASEAN企業との競争激化に備える必要がある。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.